

## 九州高令地における夏秋どりレタス栽培について

永瀬東雄・高倉志能

(大分県農業技術センター)

NAGASE, H. and TAKAKURA, S.  
Studies on the Summer and Autumn Productions  
for Lettuce in Kujū and Handa Highlands

九州の高原地帯における夏秋どりレタス栽培は困難とされ、今まで、8、9月どりについてはほとんど栽培が行われていなかった。そこで、標高900mの飯田高原で検討した結果、栽培が可能であることがわかったのでその概略を報告する。

## 1. は種期について

5月21日から7月11日まで10日おきにグレートレックス366とオリンピックアをは種した。

8月上旬どりには5月下旬のは種、8月中下旬どりが6月上旬のは種で、また、9月上旬どりが6月下旬のは種、9月中下旬どりが7月上旬のは種においていずれも収穫することができた。生育日数はグレートレックス

366で75日程度、オリンピックアでは70日たらずであった。

球重では、グレートレックス366が約500~700g、オリンピックアがやや小玉で350~500g程度で、8月中旬から9月上旬にかけて大きかった。また、球重の大きいときに結球葉数も多い傾向がみられた。

心の高さは、グレートレックス366が約4~6cm、オリンピックアが2~4cm前後で、この試験で最も心の高かったのがグレートレックス366の6月11日まき、8月下旬収穫で6.2cmであった。

## 2. 品種について

基幹品種であるグレートレックス366を対照に、オリンピックア、サマーレックス、プレミアグレートレックスの

第1表 は種期試験生育調査(1974)

品 種	は種日	収穫日	総重	球重	結球葉数	心高
	月日	月日	g	g		cm
グレートレックス366	5. 11	7. 23	871.5	526.0	31.6	4.6
オリンピックア		7. 15	829.0	521.5	35.6	3.3
グレートレックス366	5. 21	8. 3	851.5	563.5	32.7	4.6
オリンピックア		7. 27	537.5	376.5	35.0	4.2
グレートレックス366	6. 1	8. 13	906.0	545.0	30.7	3.9
オリンピックア		8. 8	480.0	370.0	32.5	2.8
グレートレックス366	6. 11	8. 26	1,273.5	702.5	36.5	6.2
オリンピックア		8. 17	713.0	459.0	33.2	3.5
グレートレックス366	6. 21	9. 3	1,116.0	638.0	31.5	5.8
オリンピックア		8. 26	739.0	472.5	34.8	3.5
グレートレックス366	7. 1	9. 14	858.0	538.0	28.7	4.5
オリンピックア		9. 9	676.0	455.0	35.0	4.6
グレートレックス366	7. 11	10. 1	996.9	510.6	26.1	2.6
オリンピックア		9. 24	547.3	384.0	31.8	2.9

第2表 品種試験生育調査(1973)

品 種	収穫日	総重	球重	結球葉数	心高
	月日	g	g		cm
グレートレックス366	8. 6	1,035.7	668.2	35.2	6.6
サマーレックス	8. 2	900.0	659.4	32.5	6.0
プレミアグレートレックス	8. 2	1,073.7	702.6	40.2	9.1
オリンピックア	8. 2	929.5	650.0	38.5	8.3

4品種について、8月の高温期収穫にあたる5月28日は種で検討した。

いずれの品種も8月上旬において収穫することができた。グレートレークス 366は晩生系で球重や外葉が大きく、葉色濃く葉肉が厚いかいくぶん球のしまりがゆるかった。プレミアグレートレークスは早生系で球重が大きかったが、4品種中最も心が高く球のしまりが悪かった。オリンピア、サマーレークスは早生系で外観が整い球のしまりがよかった。しかし、葉肉の薄いのが欠点である。

以上の結果、九州高冷地におけるレタスの夏秋どり栽培は、5月下旬から7月上旬には種すれば連続して栽培が可能であることがわかった。品種については、品質・価格の面からグレートレークス 366を基幹品種とするが、8月中旬の高温時にはオリンピアやサマーレークスを使う方が球のしまりの面で有利と思われる。さらに、良球生産のための育苗法や、温度、日長などについて検討を進めたい。